

戦火・弾圧 くぐり抜けた聖書

社会運動家 賀川豊彦ゆかり18冊

社会運動家・賀川豊彦(1888～1960)ゆかりの印刷工場で製本された聖書18冊を、神戸市垂水区の牧師岩村義雄さん(63)が30年以上かけて収集した。同市中央区の賀川記念館に寄贈される。明治・戦中の希少品で、岩村さんは「戦火と信仰への弾圧をくぐり抜けた聖書。多くの人に見てもらいたい」と話す。



賀川豊彦

18冊は1904～43年、福音印刷合資会社「の神戸工場」で生まれた。クリスマスチャンの賀川は20歳代の前半、毎週のように工場を訪れ、従業員に賛美歌を指導。そこで働く同い年の妻ハル(1888～1982)と知り合った。

結婚後、賀川はハルとともに貧しい人々の救済活動に取り組み、20年出版の自伝的小説「死線を越えて」が400万部のベストセラーに。シュバイツァー、ガンジーとともに

神戸の牧師 記念館に寄贈へ

海外で「20世紀の3大聖人」と称賛され、47、48年に日本人初のノーベル文学賞、54～56年に同平和賞の候補になった。

賀川記念館は同工場製の聖書を探したが、戦災で失われたり、敵国の宗教とみる軍部や警察の取り締まりを逃れて廃棄されたりし、数冊しか見つからなかった。

岩村さんは75年頃から、古美術商などをあたって集め、

探し当てた1冊を数十万円で買ったこともあった。装丁は

時代とともに変わり、工場初版とみられる04年製は、金箔を使った豪華な革表紙。一方、戦時中の43年製は質素な紙の表紙になり、当局の批判をかわす必要があったことをうかがわせる。聖書は年明けから記念館で公開予定。賀川の孫で、記念館長の督明さん(58)は「祖父が生きた時代が一目でわかる。祖父母の出会いを語るうえでも欠かせず、寄贈はありがたい」と話している。



聖書について語る岩村さん(神戸市垂水区) =原田拓未撮影

賀川豊彦 神戸市出身。平和運動や協同組合運動も展開し、「コープこうべ」の前身である「神戸購買組合」を

1921年に創設。23年の関東大震災では3日後に被災地入りし、支援した。30年代前半には読売新聞の「悩める女性へ」(現「人生案内」)の回答者も務めた。